



石炭利用発祥の地 イギリス

シェロプシャー州、テルフォード近郊の石炭火力発電所。かつてイギリスでは石炭の使用による酸性霧が問題となりました。最近ではSOxやNOx、CO₂の排出量は減りましたが、さらなる省エネルギー、環境対策と取り組んでいます。



原子力発電のフランス

フランスは1973年のオイルショックを契機として、原子力発電の技術開発に力を入れ、2002年末現在、原子力発電設備は59基、6,320万kW、全発電電力量の約77%を占める原子力発電大国となっています。この原子力発電による電力は、イタリア、英国、スイス等にも輸出されており、エネルギーの自給率も1973年の25%から現在では50%にまで向上する等、エネルギーの安定供給の柱となっています。



OPEC国インドネシアと石炭

ボンタンLNG基地。日本が消費しているLNGの多くは、インドネシアから輸入しています。豊富なエネルギー資源を持つインドネシアでも、一般の生活用には石炭を使用することが国策となっています。また、二酸化炭素の重要な吸収源である熱帯雨林が多く、環境を保全して行く必要があります。



アジアは成長中

農村地域には冷房はなく、子供たちは暑いときは水浴びをします。急速な経済成長によって、環境問題は深刻さを増しており、対策が必要です。



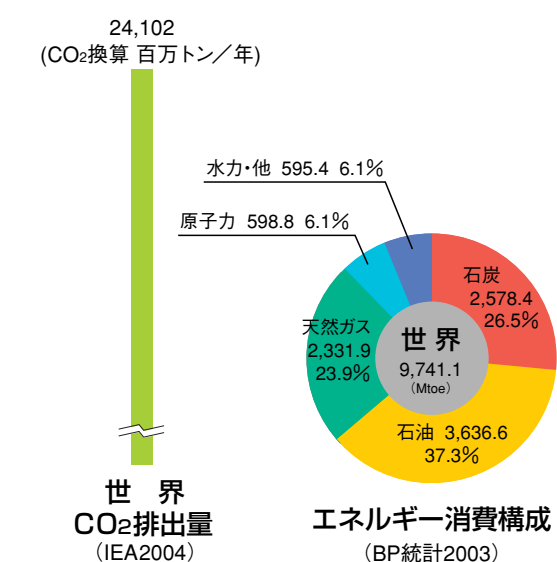
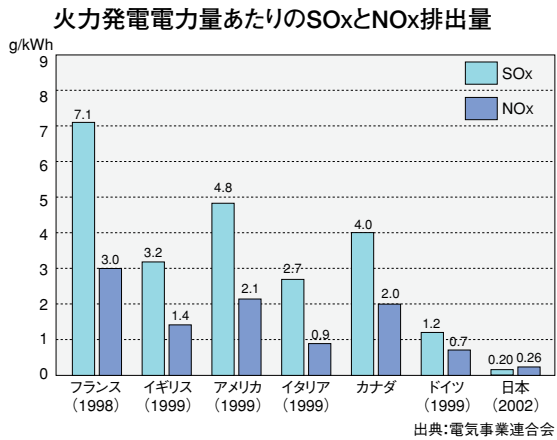
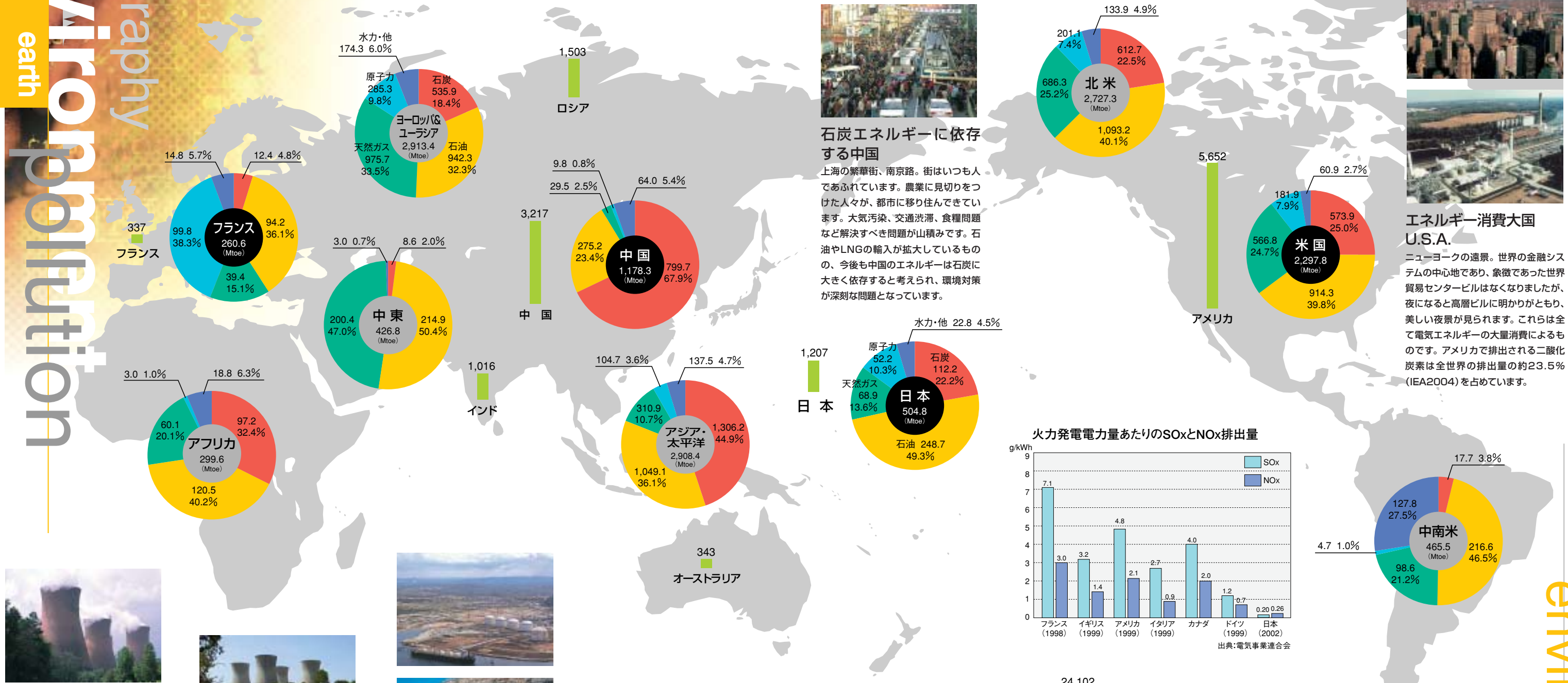
石炭エネルギーに依存する中国

上海の繁華街、南京路。街はいつも人であふれています。農業に見切りをつけた人々が、都市に移り住んできています。大気汚染、交通渋滞、食糧問題など解決すべき問題が山積みです。石油やLNGの輸入が拡大しているものの、今後も中国のエネルギーは石炭に大きく依存すると考えられ、環境対策が深刻な問題となっています。



日本の石炭エネルギーを支えるオーストラリア

ハンターバレー、ブレイズールやエンシャム炭鉱。豊富なエネルギー資源を有し、人口もそれほど多くない為、人々は豊かな暮らしを送ることができ、環境も保全されています。オーストラリア産の石炭は硫黄分が少ない良質なものが多く、日本が大量に輸入しています。



エネルギー消費大国 U.S.A.

ニューヨークの遠景。世界の金融システムの中心地であり、象徴であった世界貿易センタービルはなくなりましたが、夜になると高層ビルに明かりがとまり、美しい夜景が見られます。これらは全て電気エネルギーの大量消費によるものです。アメリカで排出される二酸化炭素は全世界の排出量の約23.5% (IEA2004) を占めています。

